

# 広報

Ako City  
Public  
Relations



「人が輝き 自然と歴史・文化が薫る やさしいまち」

の美現に向けて



赤穂八幡宮の秋祭り。兵庫県指定重要無形民俗文化財である鼻高と獅子舞、市無形民俗文化財の頭人行列が行われ、多くの観衆を魅了しました。(10/20)

平成24年度決算のあらまし .....	p 2～9
1 一般会計決算 2 財政分析 3 市債 4 基金	
5 債務負担行為の状況 6 企業会計手法による財政状況の分析	
病院事業の決算 .....	p 10～11
水道事業の決算 .....	p 12～13
介護老人保健施設事業の決算 .....	p 14
平成25年度予算上半期の状況 .....	p 15
写真で見る決算 .....	p 16

'13  
**財政特集号**  
**平成24年度  
決算**  
平成25年11月11日発行

# 1 一般会計決算



市の会計の中心をなす一般会計の決算収支は、歳入が213億8,338万円、歳出が211億2,165万円で、歳入・歳出の差引金額から翌年度に繰り越すこととなった財源を差引した実質収支は2億1,670万円となりました。

歳入決算は、前年度と比べ2.8%の増加となりました。主な特徴として、市税が1.7%の減となる一方、地方交付税が5.8%の増、国庫支出金が2.3%の増、また都市計画事業債や消防施設整備事業債等の増に伴い市債が25.8%の増となっています。

市税など市が自身で収入することができる財源（自主財源）の歳入全体に占める割合は、前年度比2.9ポイント減少して48.7%となっています。多様な行政サービスを提供していくうえで、この割合が高いほどより自主的かつ安定した事業を展開することができます。

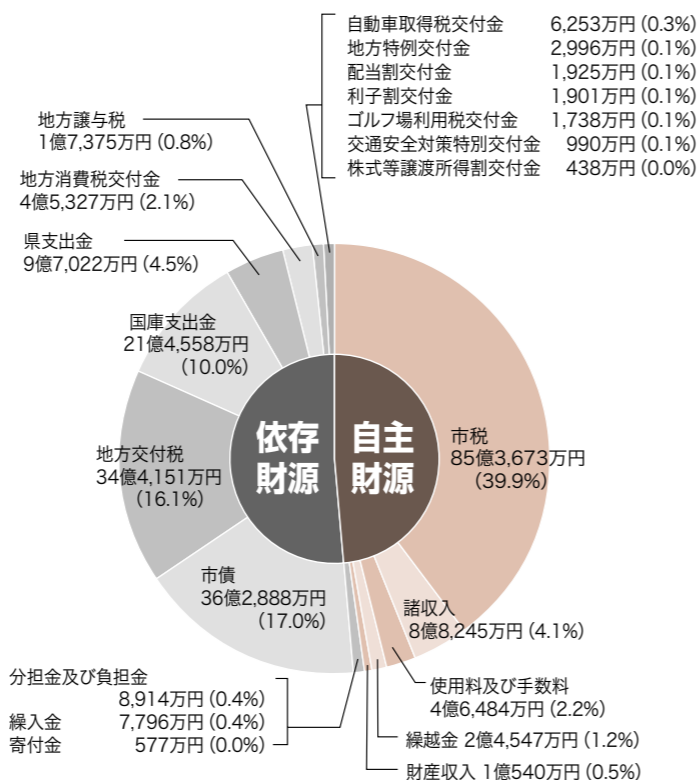
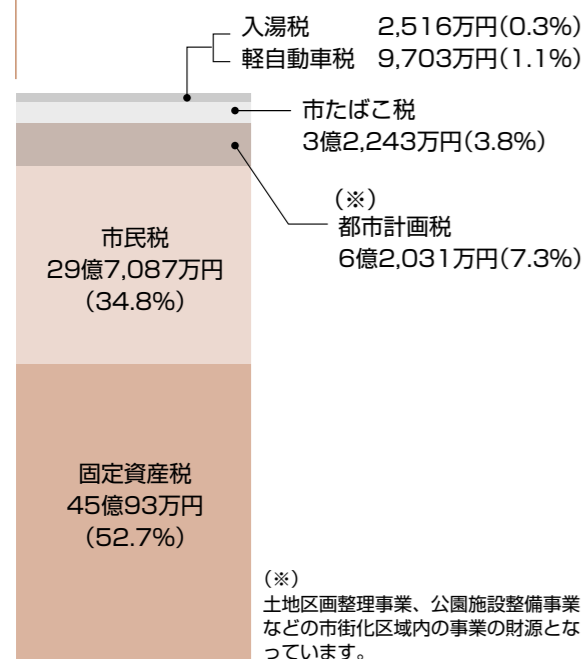
## 歳入総額

**213億8,338万円**

自主財源 **104億776万円** (48.7%)  
 依存財源 **109億7,562万円** (51.3%)

## 市税の内訳

総額 **85億3,673万円**



# 「人が輝き 自然と歴史・文化が薫る やさしいまち」の実現に向けて

平成24年度は、「人が輝き 自然と歴史・文化が薫る やさしいまち」の実現を目指し、市政の5本柱である

- 【安心】 安全・安心に生活できるまち
- 【快適】 自然と共生する住みよいまち
- 【いきわろ】 産業と交流が盛んな活力のあるまち
- 【学び】 生涯にわたり夢を育むまち
- 【連携】 市民と行政がともに歩むまち

を軸に推進し、厳しい財政環境のなか、人口減少社会に的確に対応するため、施策・事業の優先順位の厳しい選択と集中を行い、財源の確保と行財政の健全運営に留意しながら、市民福祉の増進に努め、誰もが希望と誇りをもって住み続けたいと思えるまちづくりを推進しました。

平成24年度における財政状況は、歳入において、固定資産税の評価替えなどにより、一般財源の基幹である市税収入は減となりましたが、地方交付税に臨時財政対策債を加えた実質的な地方交付税総額は増となりました。

歳出については、土地区画整理事業、尾崎・御崎地区都市再生整備事業などの継続事業を円滑に推進したほか、消防救急無線のデジタル化に着手するなど生活関連基盤の整備や地域の更なる発展に資する施策等に積極的に取り組みました。

また、財政構造の健全化を図るため、事務経費の一層の節減を行うなど、簡素でより効率的な財政運営に努めるとともに、「第6次赤穂市行政改革大綱」に基づき、中長期的な視点に立った取り組みを行いました。

## 各会計別決算状況

(1万円未満四捨五入)

会計区分	歳入			歳出			
	24年度	23年度	伸び率%	24年度	23年度	伸び率%	
一般会計	213億8,338万円	208億1,025万円	2.8	211億2,165万円	205億6,478万円	2.7	
特別会計	国民健康保険事業	56億2,284万円	54億6,209万円	2.9	55億5,780万円	54億3,335万円	2.3
	職員退職手当管理	5億9,114万円	10億5,523万円	△44.0	5億9,114万円	10億5,523万円	△44.0
	公共下水道事業	37億6,016万円	26億8,158万円	40.2	37億6,003万円	26億6,933万円	40.9
	農業集落排水事業	2億2,815万円	2億2,754万円	0.3	2億2,815万円	2億2,754万円	0.3
	墓地公園整備事業	870万円	890万円	△2.2	870万円	890万円	△2.2
	介護保険	34億2,848万円	32億3,897万円	5.9	33億8,829万円	32億1,250万円	5.5
	駐車場会計	1億2,149万円	1億2,258万円	△0.9	1億2,149万円	1億2,258万円	△0.9
	土地区画整理事業清算金	221万円	296万円	△25.3	221万円	275万円	△19.6
	後期高齢者医療保険	5億9,867万円	5億5,896万円	7.1	5億8,523万円	5億5,047万円	6.3
	小計	143億6,184万円	133億5,881万円	7.5	142億4,304万円	132億8,265万円	7.2
企業会計	病院事業	94億1,656万円	96億5,478万円	△2.5	102億9,390万円	102億8,968万円	0.0
	介護老人保健施設事業	2億8,982万円	2億8,241万円	2.6	3億505万円	3億1,357万円	△2.7
	水道事業	13億3,149万円	11億5,385万円	15.4	16億348万円	14億2,147万円	12.8
	小計	110億3,787万円	110億9,104万円	△0.5	122億243万円	120億2,472万円	1.5
合計	467億8,309万円	452億6,010万円	3.4	475億6,712万円	458億7,215万円	3.7	

(注：企業会計には消費税額を含む)

平成24年度市民1人当たりの決算額 **941,700円**

※平成25年3月31日現在の住民基本台帳人口50,512人で計算したものです。

一般会計 **418,151円**

特別会計・企業会計 **523,549円**

## 2 財政分析

市の財政の状態を分析するうえで用いられる指数及び比率には、次のようなものがあります。

### ①財政力指数(3カ年平均)

地方公共団体の財政力を示す指数として用いられ、1を超えるほど財源に余裕があるとされています。

	24年度(H22~H24)	23年度(H21~H23)
赤穂市	0.708	0.721
県平均	0.715	0.721
県内市平均(神戸市除く)	0.722	0.735

### ③市債・基金1人あたり現在高(普通会計ベース)

家庭では、家を建てるときや車を買うときに借り入れる「ローン」にあたる「市債現在高」と「貯金」にあたる「基金現在高」を人口一人あたりに直すと以下のとおりです。

	市債現在高(借金)	基金現在高(貯金)
赤穂市	453,105円	69,038円
県内市平均	517,885円	69,545円

### ②経常収支比率(普通会計ベース)

人件費や公債費など、経常的に支出しなければならない経費に充てられた一般財源の経常一般財源(毎年経常的に収入され、用途を特定されないお金)総額に対する割合を、経常収支比率といいます。

この比率が高いほど自由に使えるお金の割合が少なく、道路や公園の整備をはじめ、市民の新しいニーズにこたえていく余力がなくなっていることを意味します。

	24年度	23年度
赤穂市	84.8	87.6
県平均	90.9	92.3
県内市平均(神戸市除く)	90.9	90.8



## 財政健全化判断比率

### 1 実質赤字比率

標準財政規模(市税などの一般財源の標準規模)等に対する、実質赤字額の比率です。

### 2 連結実質赤字比率

公営企業会計を含む全会計の赤字や黒字を合算し、市全体としての赤字の程度を示します。

### 3 実質公債費比率(3カ年平均)

標準財政規模等に対する、市が借り入れた借金(市債)の返済費用である公債費や、病院事業・下水道事業などの公営企業会計に対して公債費の補てんのために支出した額(繰出金)の合計額の割合を表す指標で、市の実質的な借入金の負担比率を示します。18%を超えると市債の発行にあたり県の許可が必要になりますが、平成24年度決算においては10.8%となり、前年度比で0.9ポイント減少しています。

### 4 将来負担比率

病院事業・水道事業を含め、市として将来負担すべき実質的な負債の総額の標準財政規模を基本とした額に対する比率です。

一般会計等の借入金(地方債)や将来払っていく可能性のある負担等の、現時点での残高を指標化しており、将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示すもので、比率が低いほど財政状態が良いことを表します。

区分	1 実質赤字比率	2 連結実質赤字比率	3 実質公債費比率	4 将来負担比率
赤穂市	—	—	10.8	142.6
県平均			11.2	93.9
県内市平均(神戸市除く)			11.2	84.8
早期健全化基準	13.01	18.01	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

実質赤字額及び連結実質赤字額がない場合は、「—」と記載しています。

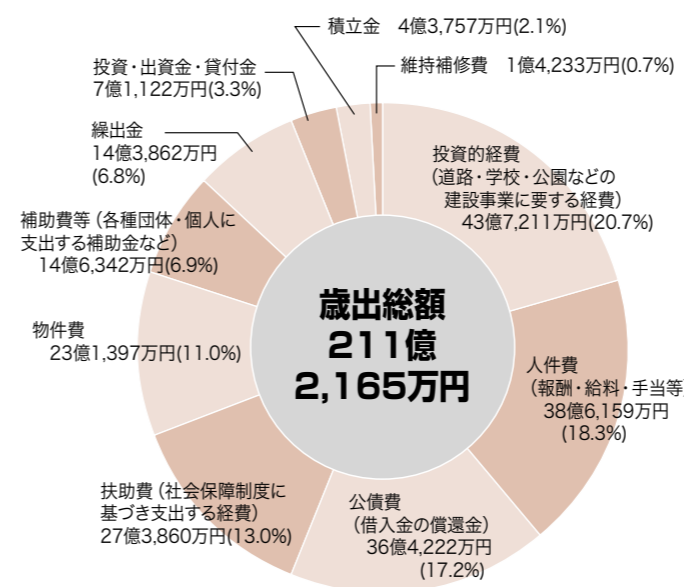


歳出決算は、前年度より2.7%の増加となりました。主な増減内訳として、尾崎・御崎地区都市再生整備事業などにより土木費が21.7%の増、消防救急無線デジタル化事業などにより消防費が19.2%の増となっています。

街路や公園等の建設事業に要する投資的経費は、生活関連基盤等の積極的な整備を図った結果22.7%の大幅な増となり、人件費、公債費、扶助費といった義務的に支出しなければならない経費の歳出総額に占める割合は48.5%となっています。

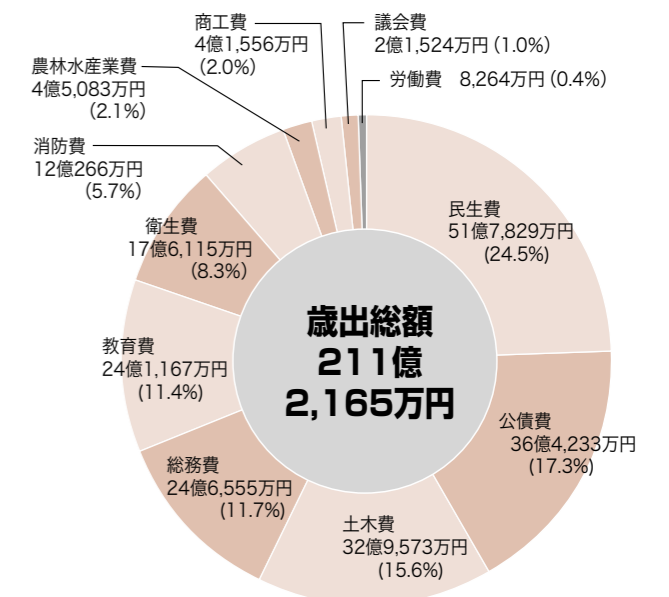
## 性質別内訳

経済的性質を基準として分類され、これにより経費の構造や財政体質を知ることができます。

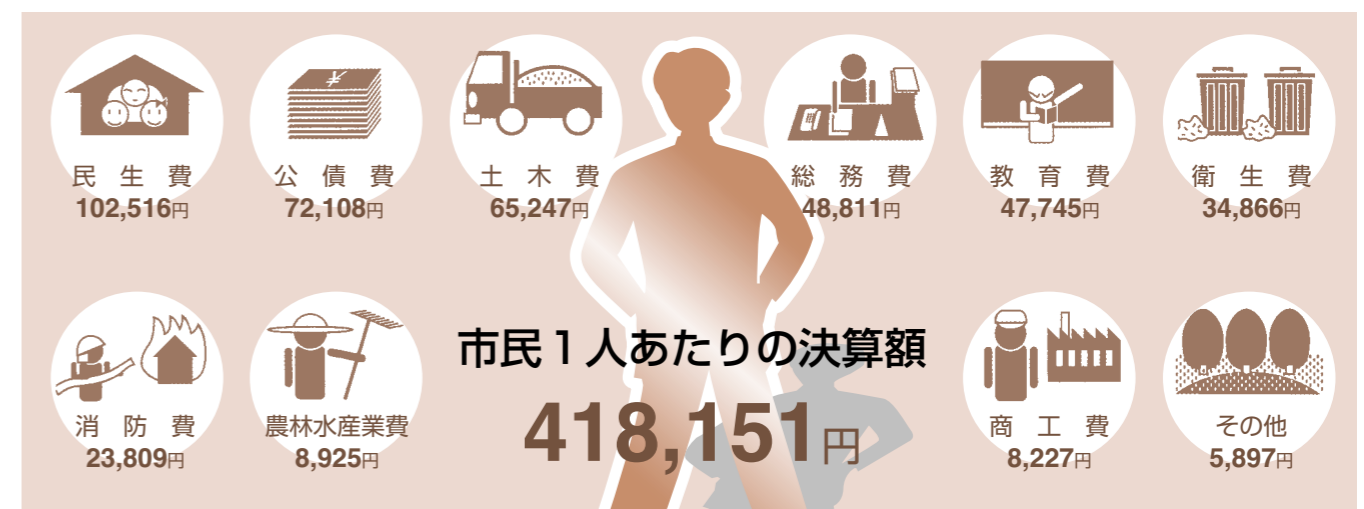


## 目的別内訳

各行政目的別、つまり各部局ごとの仕事の内容によって分類され、これにより各部課ごとの経費の比重を知ることができます。



## 市民1人あたりの決算額(目的別)



# 6 企業会計手法による 財政状況の分析

赤穂市の財政状況を検討する一つの手法として、企業会計的な考え方を取り入れた「財務書類4表」を作成しています。「バランスシート（貸借対照表）」「行政コスト計算書」「純資産変動計算書」「資金収支計算書」の4表から、資産や負債の状態（ストック情報）や行政サービスに要したコスト（フロー情報）、実際の資金の流れをみることで、より詳細にわかりやすく財政状況を把握できます。

## ① バランスシート

<b>資産</b>	<b>1,087億円</b>
(市民1人あたり)	215万3千円)
<b>負債</b>	<b>308億円</b>
(市民1人あたり)	61万円)
<b>純資産</b>	<b>779億円</b>
(市民1人あたり)	154万3千円)

### ■ バランスシートからわかること

バランスシートとは、住民サービスを提供するために保有している資産と、その資産をどのような財源（負債、純資産）で調達してきたかを総括的に対照表示したものです。

赤穂市の資産については、投資及び出資金や有形固定資産などの増加により、前年度と比べて増加しており、負債についても、投資的事業の推進に伴う地方債の増加などにより、前年度と比べて増加しています。

また、負債と純資産が資産に占める割合をみると、負債が28.3%（平成23年度28.5%）、純資産が71.7%（平成23年度71.5%）となっており、前年度とほぼ同じ水準であることから、将来への負担はおおむね横ばいで推移しています。

[注]

- ・普通会計を対象としています。
- ・各表内の〔 〕は、対前年度増減額です。
- ・市民1人あたりの各表は、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口（50,512人）で計算しています。
- ・表示単位未満は「-」としています。

## 平成24年度バランスシート (平成25年3月31日現在)

借方		貸方	
<b>資産の部</b>		<b>負債の部</b>	
1. 公共資産	956億円 (2億円)	1. 固定負債	276億円 (△1億円)
(1) 有形固定資産	954億円 (2億円)	(1) 地方債	206億円 (3億円)
(2) 売却可能資産	2億円 (-)	(2) 退職手当引当金	35億円 (-)
2. 投資等	110億円 (6億円)	(3) その他	35億円 (△4億円)
(1) 投資及び出資金	83億円 (5億円)	2. 流動負債	32億円 (2億円)
(2) 貸付金	1億円 (-)	(1) 翌年度償還予定地方債	23億円 (-)
(3) 基金等	26億円 (1億円)	(2) その他	9億円 (2億円)
3. 流動資産	21億円 (3億円)	<b>負債合計</b>	<b>308億円 (1億円)</b>
(1) 現金・預金	20億円 (3億円)	<b>純資産の部</b>	<b>779億円 (10億円)</b>
(うち歳計現金)	(3)億円 (-)	<b>純資産合計</b>	<b>779億円 (10億円)</b>
(2) 未収金	1億円 (-)		
<b>資産合計</b>	<b>1,087億円 (11億円)</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>1,087億円 (11億円)</b>

## 市民1人あたりのバランスシート (平成25年3月31日現在)

借方		貸方	
<b>資産の部</b>		<b>負債の部</b>	
1. 公共資産	1,892千円 (4千円)	1. 固定負債	547千円 (△1千円)
(1) 有形固定資産	1,889千円 (4千円)	(1) 地方債	408千円 (7千円)
(2) 売却可能資産	3千円 (-)	(2) 退職手当引当金	70千円 (-)
2. 投資等	218千円 (12千円)	(3) その他	69千円 (△8千円)
(1) 投資及び出資金	165千円 (10千円)	2. 流動負債	63千円 (3千円)
(2) 貸付金	1千円 (-)	(1) 翌年度償還予定地方債	45千円 (△1千円)
(3) 基金等	52千円 (2千円)	(2) その他	18千円 (4千円)
3. 流動資産	43千円 (8千円)	<b>負債合計</b>	<b>610千円 (2千円)</b>
(1) 現金・預金	41千円 (8千円)	<b>純資産の部</b>	<b>1,543千円 (22千円)</b>
(うち歳計現金)	(5)千円 (-)	<b>純資産合計</b>	<b>1,543千円 (22千円)</b>
(2) 未収金	2千円 (-)		
<b>資産合計</b>	<b>2,153千円 (24千円)</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>2,153千円 (24千円)</b>

- 有形固定資産 道路等の社会基盤となる資産、社会教育施設等の公共サービスに供されている資産
- 売却可能資産 遊休資産や未利用資産等の売却が可能な資産
- 投資及び出資金 債券及び株式並びに財団法人等の寄付行為に係る出金等
- 現金預金 歳計現金等
- 未収金 税等の未収金
- 退職手当引当金 特別職を含む全職員が年度末に普通退職したと仮定した場合の退職手当見込額

# 4 基金

事業の推進、財源調達のために必要な資金を積立てて運用する基金等の状況は、次表のとおりです。

## ■ 基金内訳(一般会計+特別会計)

基金名	現在高
1 財政調整基金	14億3,495万円
2 市債管理基金	3億4,612万円
3 その他特定目的基金	29億6,219万円
(健康管理施設整備基金)	4億3,231万円
(都市施設等整備事業基金)	3億9,250万円
(赤穂ふるさとづくり基金)	559万円
<b>合計</b>	<b>47億4,326万円</b>

現金	41億7,242万円
出資金	500万円
有価証券	336万円
土地	5億6,248万円

## 赤穂市の家計簿 ～一般会計決算を家計に例えると～

市の決算額はおよそ200億円という大きな額のため、このままでは実感がわきにくいものです。そこで、市の財政状況を年収500万円の家計に置き換えて表してみました。

赤穂市の一般会計決算(平成24年度決算)		赤穂市の家計簿	
		収入項目	年間収入 / 1ヵ月の収入
皇財源	市税・使用料手数料など	103億2,980万円	給料・ボーナス 500万円 / 42万円
依存財源	繰入金	7,796万円	貯金の取崩し 4万円 / 0万円
	国県支出金 地方交付税など	73億4,674万円	親からの援助、児童手当など 355万円 / 29万円
	市債	36億2,888万円	借金 176万円 / 15万円
	収入合計	213億8,338万円	収入合計 1,035万円 / 86万円

赤穂市の一般会計決算(平成24年度決算)		赤穂市の家計簿	
		支出項目	年間支出 / 1ヵ月の支出
人件費	38億6,159万円	生活費(食費)	187万円 / 15万円
扶助費	27億3,860万円	医療費、保育料など	132万円 / 11万円
公債費	36億4,222万円	ローンの返済	176万円 / 15万円
物件費等	46億3,094万円	光熱水費、電話代、消耗品、寄付金、冠婚葬祭費、交際費など	224万円 / 18万円
繰出金	14億3,862万円	子どもへの仕送り	70万円 / 6万円
積立金	4億3,757万円	貯金	21万円 / 2万円
投資的経費	43億7,211万円	自宅のリフォーム、自家用車購入など	212万円 / 18万円
支出合計	211億2,165万円	支出合計	1,022万円 / 85万円

★市債残高 230億3,933万円 ローン残高 1,115万円(前年度1,066万円)

# 3 市債

住みよいまちづくりを進めるために、道路や公園、下水道などの生活環境施設や、学校などの教育施設の整備を積極的に行っていますが、単年度の市税等だけでは、これらの財源をまかないきれません。

また、これらの事業効果は後年度に及ぶものであり、後年度の世代との負担を均等にすることからも、必要な財源の一部を市債として借入れ、後年度に市税等で償還(返済)しています。

## ■ 市債の状況

区分	23年度末現在高	24年度中増減		24年度末現在高
		市債借入額	元金償還額	
一般会計	227億4,252万円	36億2,888万円	33億3,207万円	230億3,933万円
公共下水道事業特別会計	170億6,261万円	14億9,800万円	18億1,848万円	167億4,213万円
農業集落排水事業特別会計	23億5,323万円		1億2,575万円	22億2,748万円
駐車場事業特別会計	9億9,302万円		1億674万円	8億8,628万円
<b>合計</b>	<b>431億5,138万円</b>	<b>51億2,688万円</b>	<b>53億8,304万円</b>	<b>428億9,522万円</b>

# 5 債務負担行為の状況

債務負担行為とは、後年度において支出の義務を負う行為、例えば数年度にわたる工事を一括して契約することです。平成24年度末の状況は、次表のとおりです。

## ■ 債務負担行為の状況

事業名	債務負担行為限度額	期間	25年度以降支出予定額
電算基幹業務再構築事業	4億3,754万円	平23~平28	1億4,504万円
福地コミュニティセンター指定管理料	220万円	平24~平26	220万円
戸籍事務電算化事業	1億6,695万円	平23~平28	1億2,767万円
総合福祉会館等施設指定管理料	3,561万円	平24~平26	3,561万円
農村多目的共同利用施設指定管理料	287万円	平24~平26	287万円
土地改良施設維持管理通正化事業	460万円	平25~平29	460万円
温泉源掘削事業補助	赤穂観光協会が事業資金として金融機関より融資を受けた額の元利償還金の1/2	平12~平26	債務負担行為限度額と同じ
御崎レストハウス指定管理料	1,612万円	平24~平26	1,612万円
まちづくり会館指定管理料	380万円	平24~平26	380万円
都市公園指定管理料	1億4,542万円	平24~平26	1億4,542万円
都市公園指定管理料	520万円	平25~平26	520万円
民俗資料館指定管理料	1,552万円	平24~平26	1,552万円
歴史博物館指定管理料	3,300万円	平24~平26	3,300万円
海洋科学館指定管理料	2,692万円	平24~平26	2,692万円
文化会館指定管理料	1億3,414万円	平24~平26	1億3,414万円
美術工芸館指定管理料	2,552万円	平24~平26	2,552万円
市民総合体育館及び城南緑地運動施設等指定管理料	2億6,082万円	平24~平28	2億6,082万円
野外活動センター指定管理料	1,577万円	平24~平26	1,577万円

### ③純資産変動計算書

期首純資産残高	769億円
(市民1人あたり)	152万1千円
年間変動額	+10億円
(市民1人あたり)	+2万2千円
期末純資産残高	779億円
(市民1人あたり)	154万3千円

純資産変動計算書 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

	全 体	市民1人あたり
1. 期首純資産残高	769億円	1,521千円
2. 純経常行政コスト	△161億円	△318千円
3. 財源調達	166億円	329千円
(1) 地方税	86億円	169千円
(2) 地方交付税	34億円	68千円
(3) 経常補助金	25億円	49千円
(4) 建設補助金	6億円	13千円
(5) その他収入	15億円	30千円
4. その他	5億円	11千円
5. 期末純資産残高	779億円	1,543千円

#### ■純資産変動計算書からわかること

純資産変動計算書とは、バランスシートの純資産の部に計上されている各数値が、1年間でどのように変動したかを表したものです。純資産の部は、今までの世代が負担してきた部分ですので、純資産が増加すると、現役世代が自らの負担によって、将来世代も利用可能な資産を蓄積し、将来世代の負担を軽減していることを表します。反対に純資産が減少すると、現役世代が将来世代にとっても利用可能であった資産を消費して行政サービスを受け一方で、将来世代にその分の負担を先送りすることを表しています。

平成24年度バランスシートの純資産残高である「期首純資産残高」が769億円(市民1人あたり152万1千円)、平成24年度バランスシートの純資産残高である「期末純資産残高」は779億円(市民1人あたり154万3千円)で、差引10億円(市民1人あたり2万2千円)の純資産の増額となっています。

#### 用語解説

- 期首純資産残高 前年度末の純資産の額
- 純経常行政コスト 行政コスト計算書により算定される数値
- その他 資産の除売却損益、資産の再評価による損益等

### ④資金収支計算書

経常的収支	50億円
(市民1人あたり)	9万9千円
公共資産整備収支	△8億円
(市民1人あたり)	△1万6千円
投資・財務的収支	△42億円
(市民1人あたり)	△8万3千円
当期収支	-1億円
(市民1人あたり)	-1千円

#### 資金収支計算書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

	全 体	市民1人あたり
1. 経常的収支	50億円	99千円
2. 公共資産整備収支	△8億円	△16千円
3. 投資・財務的収支	△42億円	△83千円
4. 当期収支	-1億円	-1千円
5. 期首資金残高	3億円	5千円
6. 期末資金残高	3億円	5千円
(基礎的財政収支)		
収入総額	200億円	397千円
支出総額	△199億円	△394千円
地方債発行額	△26億円	△52千円
地方債元利償還額	26億円	51千円
減債基金等増減額	4億円	7千円
7. 基礎的財政収支	5億円	9千円

#### ■資金収支計算書からわかること

資金収支計算書とは、歳計現金(=資金)の出入りの情報を、「経常的収支の部」、「公共資産整備収支の部」及び「投資・財務的収支の部」の3つの区分に分けて表示したものです。

経常的収支は、人件費や物件費などの支出と、地方税や地方交付税などの収支であり、50億円(市民1人あたり9万9千円)の資金余剰(黒字)となっています。

公共資産整備収支は、社会資本整備への支出と、その財源となった国・県補助金や地方債などの収支であり、8億円(市民1人あたり1万6千円)の資金不足(赤字)となっています。

投資・財務的収支は、地方債の償還、貸付金などの支出と、その財源となった国・県補助金や貸付金の回収額などの収支であり、42億円(市民1人あたり8万3千円)の資金不足となっています。

全体の当期収支としては、経常的収支における資金余剰により、公共資産整備収支、投資・財務的収支で生じている資金不足を補てんし、期末資金は期首資金と同額の3億円(市民1人あたり5千円)となっています。



#### 用語解説

- 経常的収支 経常的な行政活動の収支で、その他の収支に含まれないもの
- 公共資産整備収支 公共資産の整備にかかる収支
- 投資・財務的収支 地方債の元利償還、発行額の収支等
- 基礎的財政収支 公債費関連の歳入・歳出を除いた基礎的な財政収支(プライマリーバランス)

### ②行政コスト計算書

経常行政コスト	170億円
(市民1人あたり)	33万5千円
経常収益	9億円
(市民1人あたり)	1万7千円
純経常行政コスト	161億円
(市民1人あたり)	31万8千円

#### ■行政コスト計算書からわかること

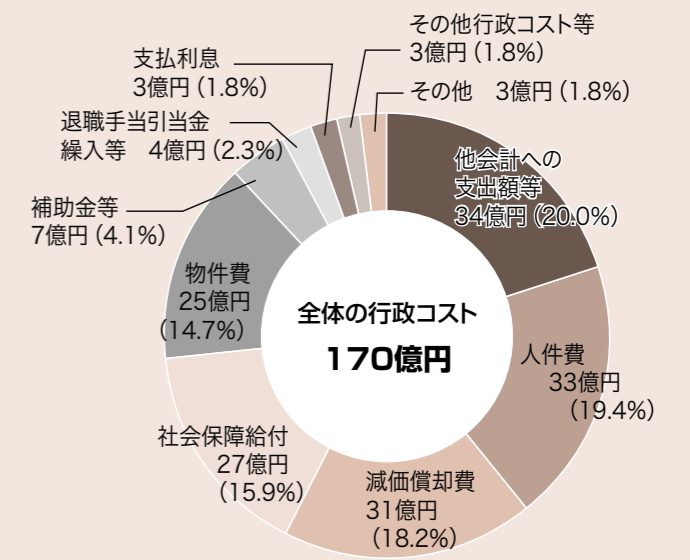
行政コスト計算書とは、1年間の行政活動のうち、資産形成につながらない人的サービスや福祉の給付サービスなどのための経費と、それに対する直接の対価として得られた財源を対比させたものです。

平成24年度における赤穂市の経常行政コストは170億円(市民1人あたり33万5千円)、費用を賄うための経常収益(受益者負担)は9億円(市民1人あたり1万7千円)で、差引の純経常行政コスト161億円(市民1人あたり31万8千円)は、地方税や地方交付税といった一般財源等で賄われています。

#### 平成24年度 行政コスト計算書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

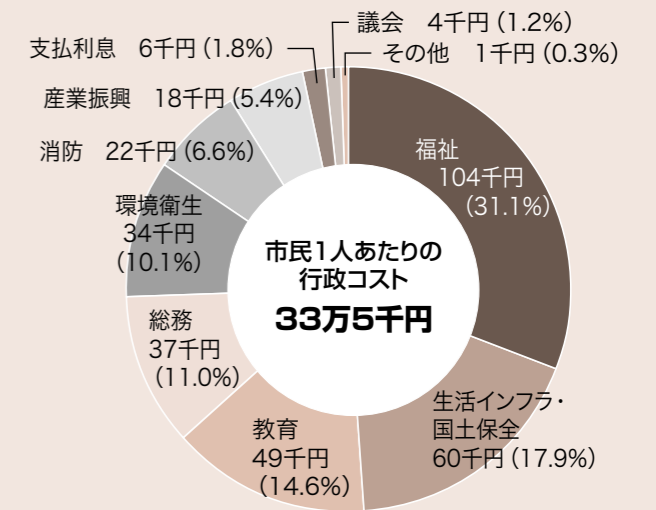
経常行政コスト	170億円	(5億円)
1. 人にかかるコスト	39億円	(△2億円)
(1)人件費	33億円	(△2億円)
(2)退職手当引当金繰入等	4億円	(-)
(3)賞与引当金繰入額	2億円	(-)
2. 物にかかるコスト	57億円	(-)
(1)物件費	25億円	(-)
(2)維持補修費	1億円	(-)
(3)減価償却費	31億円	(-)
3. 移転支的コスト	68億円	(4億円)
(1)社会保障給付	27億円	(-)
(2)補助金等	7億円	(-)
(3)他会計への支出額等	34億円	(4億円)
4. その他のコスト	6億円	(3億円)
(1)支払利息	3億円	(-)
(2)その他行政コスト等	3億円	(3億円)
経常収益	9億円	(-)
1. 使用料・手数料	5億円	(-)
2. 分担金・負担金・寄附金	4億円	(-)
純経常行政コスト	161億円	(5億円)
(経常行政コスト-経常収益)		



#### 市民1人あたりの行政コスト計算書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

経常行政コスト	335千円	(8千円)
1. 人にかかるコスト	77千円	(△4千円)
(1)人件費	66千円	(△3千円)
(2)退職手当引当金繰入等	7千円	(△1千円)
(3)賞与引当金繰入額	4千円	(-)
2. 物にかかるコスト	113千円	(1千円)
(1)物件費	49千円	(-)
(2)維持補修費	2千円	(-)
(3)減価償却費	62千円	(1千円)
3. 移転支的コスト	133千円	(6千円)
(1)社会保障給付	53千円	(△1千円)
(2)補助金等	14千円	(-)
(3)他会計への支出額等	66千円	(7千円)
4. その他のコスト	12千円	(5千円)
(1)支払利息	6千円	(△1千円)
(2)その他行政コスト等	6千円	(6千円)
経常収益	17千円	(△1千円)
1. 使用料・手数料	9千円	(-)
2. 分担金・負担金・寄附金	8千円	(△1千円)
純経常行政コスト	318千円	(9千円)
(経常行政コスト-経常収益)		



#### 用語解説

- 退職手当引当金繰入等 将来の退職手当のうち当期に発生した分
- 物件費 旅費、備品購入費等
- 社会保障給付 生活保護費等
- 他会計への支出額等 特別会計等他会計への財政支出



問い合わせ先  
市民病院財務課 ☎43・6421

### 業務の状況

平成24年度の延利用患者数は入院 104,041人、外来 203,651人でした。

一日平均患者数は入院 285人、外来 831人で、医師、看護師など総勢 398人の職員で医療活動を行いました。

平成24年度から、各病棟に薬剤師を配置し薬剤管理や服薬指導を行い、医療の質と安全確保に努めるとともに、訪問看護ステーションに理学療法士を配置するなど、在宅医療の拡充にも取り組んでまいりました。

また、コンビニエンスストアを院内売店として開店するなど、患者サービスの向上にも努めてまいりました。

医療機器においては、人工心肺装置の整備を行うとともに、電子カルテ関連システムを充実させ、医療情報一元化により効率性の向上を図ったほか、非常用発電機や浄水装置を配備するなど、「災害拠点病院」として備蓄器材を整備いたしました。

今後とも、「良い医療を、効率的に、地域住民と

ともに」の基本理念のもと、院是「恕」(おもいやり)の精神をもって、市民と地域に信頼される病院を目指してまいります。

### 経理の状況

経営状況を表す収益的収支については、総収益 8,708,557,169円、総費用 9,111,400,950円となり、402,843,781円の赤字となりました。

資本的収支は、企業債などの収入 692,077,096円に対し、医療機器整備などの支出 1,260,858,522円となり、その差額 568,781,426円については内部留保資金で補てんいたしました。

### 今後の病院運営

今後の病院運営につきましては、平成25年3月に策定した「第2次赤穂市民病院改革プラン」に基づき、医師・看護師等医療従事者の確保に継続的に取り組み、早期の診療体制回復に努めるとともに、患者ニーズに合った診療体制の整備と病院経営の健全性維持に努めてまいります。

## 患者利用の状況

### 1. 診療科別一日平均患者数

【病院】

(単位：人)

区分	内科	呼吸器科	消化器科	循環器科	小児科	外科	産婦人科
入院	23.4	0.0	81.9	59.5	4.6	4.5	14.5
外来	123.5	22.2	151.3	86.8	36.5	27.3	37.7
区分	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	整形外科	泌尿器科	放射線科	脳神経外科
入院	0.2	3.8	1.1	58.4	11.6	0.2	16.5
外来	16.2	35.5	47.5	114.0	42.0	12.6	16.6
区分	麻酔科	形成外科	心療内科	精神科	歯科口腔外科	計	
入院	0.0	2.9	0.0	0.0	1.9	285.0	
外来	12.2	18.1	5.6	0.0	25.6	831.2	

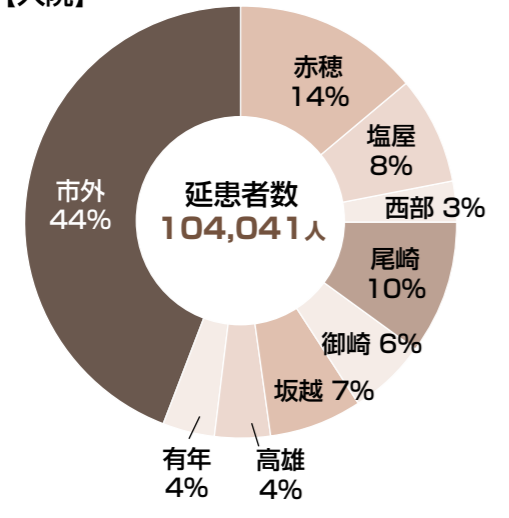
【診療所】

(単位：人)

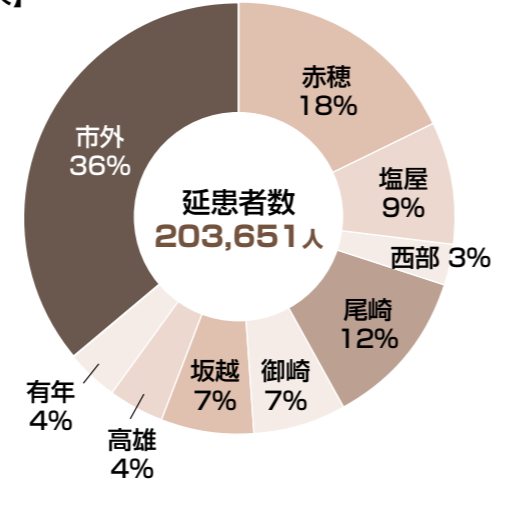
区分	高雄	福浦	有年	合計
外来	13.3	18.9	16.5	48.7

### 2. 地区別患者比率

【入院】

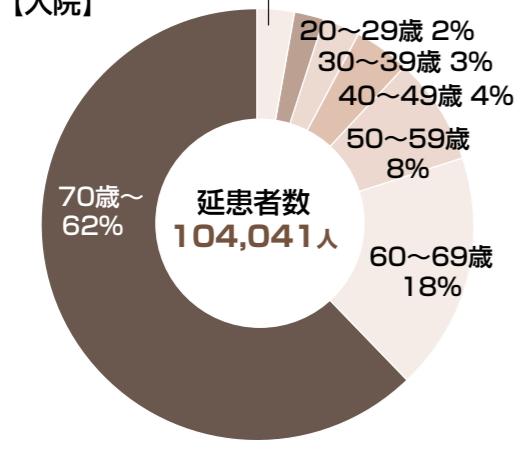


【外来】

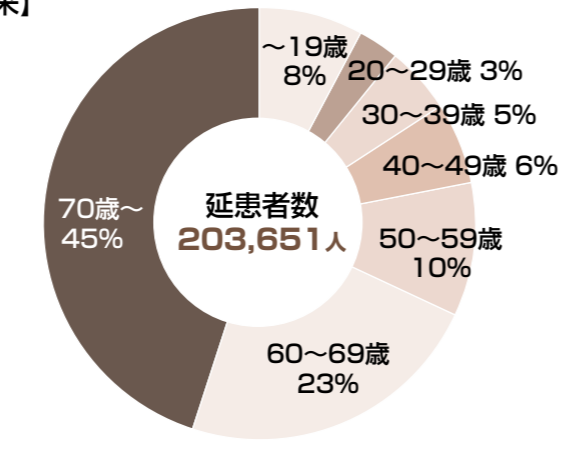


### 3. 年齢別患者比率

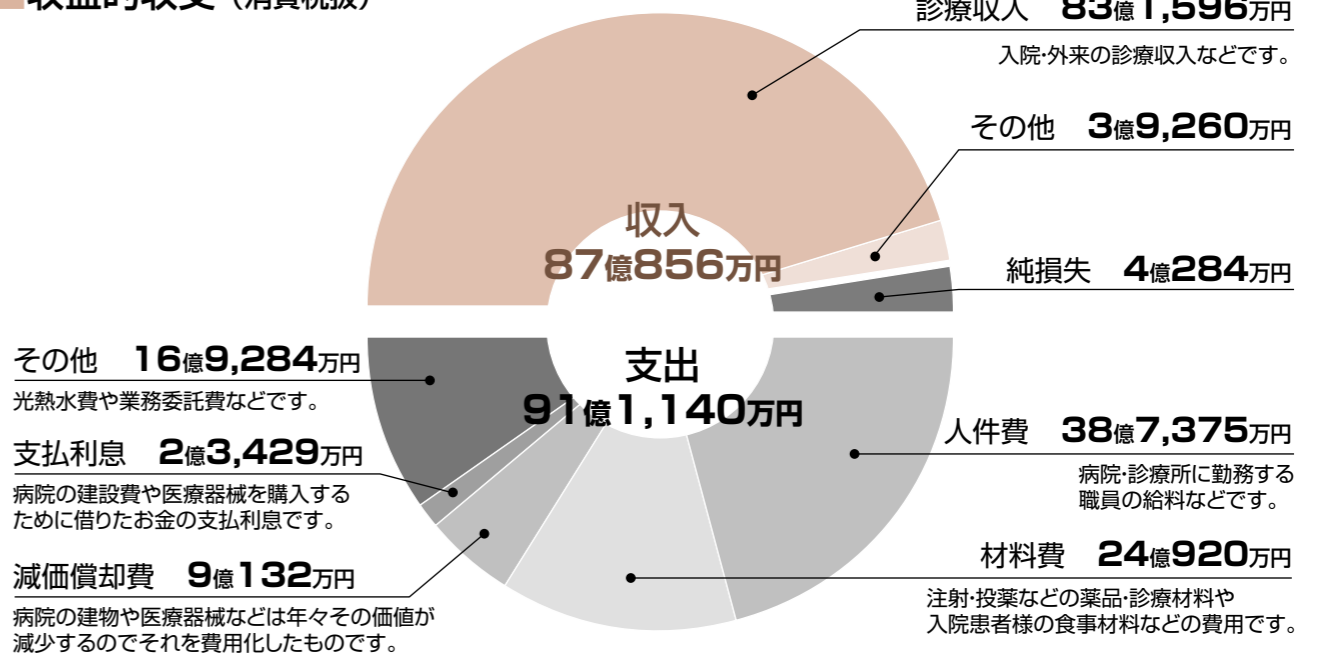
【入院】



【外来】



### 収益的収支 (消費税抜)



# 水道事業の決算

問い合わせ先  
上下水道部総務課 ☎43・6888



## 平成24年度の主な建設改良工事

- 配水管布設等工事  
事業費 116,543,500円  
・宅地開発などに伴い、新しい管を布設しました。(平成24年度は、1,440.0m新設しました)
- 配水管改良工事  
事業費 49,203,000円  
・老朽化した配水管を新しい管に取り替えました。(平成24年度は、432.0m改良しました)
- 原水施設改良工事  
事業費 128,421,300円  
・木津水源地板越送り取水井戸改良などの施設を整備しました。

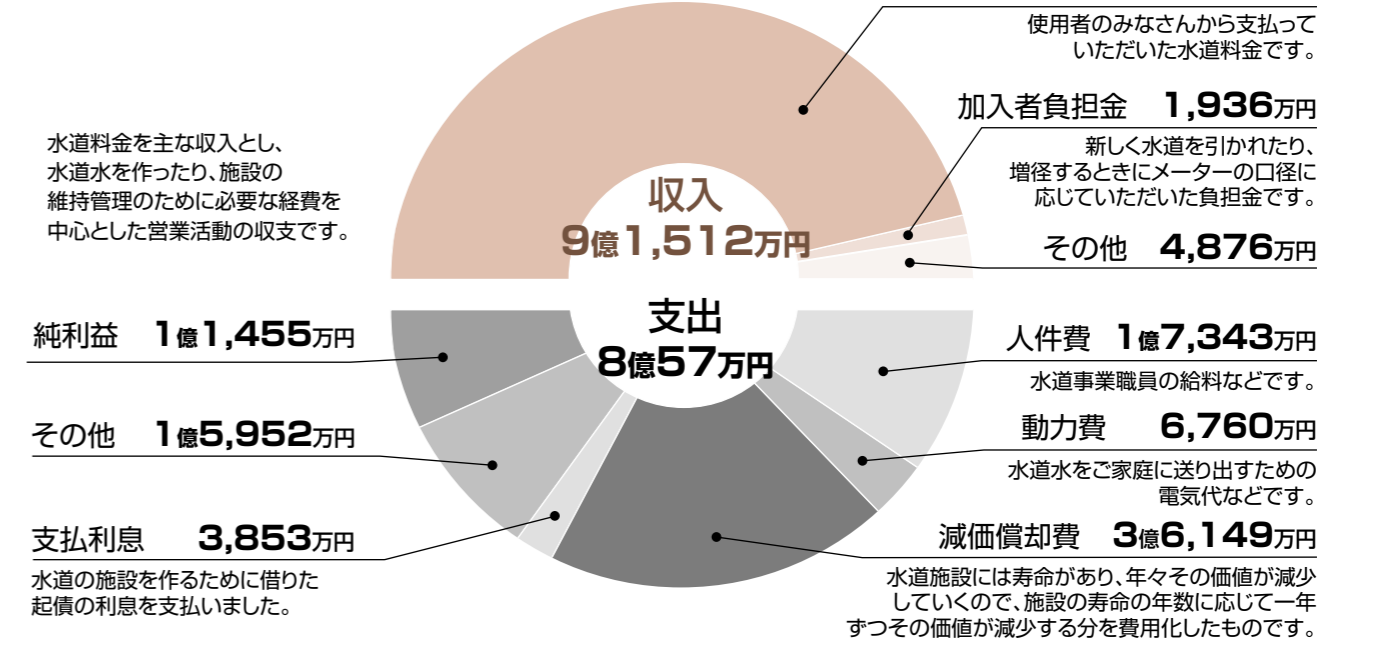
## 業務の状況

平成24年度は、50,512人の方々に1日平均35,390m<sup>3</sup>の水をご使用いただき収益的収支は、総収益915,122,137円、総費用800,571,701円となり、114,550,436円の黒字となりました。この利益は平成25年度以降の水道施設の建設や企業債の借入金の返済に充てられます。

資本的収支は、水道施設の建設事業を実施し、支出773,569,053円に対し、収入371,093,019円となっています。平成24年度の主な建設改良工事は次のとおりです。

なお、国等からの借入金(起債)残高は1,540,503,515円で、これは長期にわたり水道料金をもって計画的に返済していくことにしています。

## 収益的収支(消費税抜)



## 漏水にご注意を

水道の使用水量が前回と比べて急になつたりした場合、漏水をしていることが考えられます。

家屋内の蛇口等を全部閉めてもメーターのパイロットが回っているようでしたら、漏水の可能性がります。すみやかに赤穂市指定給水装置工事業者に依頼して修理してください。

## 水道メーターの検針にご協力を

赤穂市では2ヵ月ごとに水道メーターの検針をしています。次のことについて、みなさまのご協力をお願いします。

- 水道メーターボックスの上には、自動車や物を置かないでください。
- 水道メーターボックスの中は、いつもきれいにしておいてください。
- 犬は、出入口や水道メーターボックスから離してつないでください。

## 水道使用水量等のお知らせ

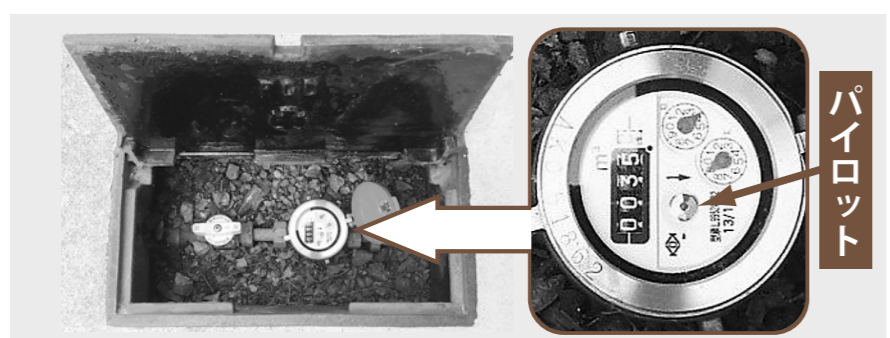
2ヵ月ごとに検針をして「水道使用水量等のお知らせ」を各戸に通知しています。

主な内容は、①今回の使用水量②今回請求予定金額と納付(振替)予定日③水道料金と下水道使用料(または排水処理施設使用料)④前回分口座振替内容⑤通信欄と裏面でお願ひ事項等をお知らせしています。

## 便利な口座振替を

水道料金は下水道使用料(または排水処理施設使用料)とともに2ヵ月ごとにいただいています。(納入期日は検針の翌月25日でその日が金融機関の営業日でない日はその翌日)

納入期日を忘れたり、お支払いに向くなどの手間が省ける便利な口座振替を是非ご利用ください。



## 平成24年度の水質

### 178項目の検査で安全な水を安定的に

平成24年度の水質検査の結果は、次のとおりで、すべて水質基準値を満たしています。また、これら水質基準項目(50項目)に加え、目標設定項目27項目(農薬102項目含む)の検査を随時行い、より安全で良質な水を安定的に供給しています。

## 給水栓水質測定結果(24年度平均値)

番号	検査項目	基準値等	北部水源系給水栓	南部水源系給水栓	備考
1	一般細菌	100個/ml以下	0	0	病原微生物
2	大腸菌	不検出	不検出	不検出	
3	カドミウム及びその化合物	0.003mg/l以下	<0.0003	<0.0003	
4	水銀及びその化合物	0.0005mg/l以下	<0.00005	<0.00005	
5	セレン及びその化合物	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	重金属
6	鉛及びその化合物	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
7	ヒ素及びその化合物	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
8	六価クロム化合物	0.05mg/l以下	<0.005	<0.005	
9	シアニド化合物及び塩化シアニド	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
10	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	10mg/l以下	1.80	0.79	無機物
11	フッ素及びその化合物	0.8mg/l以下	0.09	0.09	
12	ホウ素及びその化合物	1.0mg/l以下	<0.02	<0.02	
13	四塩化炭素	0.002mg/l以下	<0.0002	<0.0002	
14	1,4-ジクロロベンゼン	0.05mg/l以下	<0.005	<0.005	
15	ジクロロメタン	0.02mg/l以下	<0.002	<0.002	有機物
16	テトラクロロエチレン	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
17	トリクロロエチレン	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
18	ベンゼン	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	
20	塩素酸	0.6mg/l以下	<0.06	<0.06	
21	クロロ酢酸	0.02mg/l以下	<0.002	<0.002	
22	クロロホルム	0.06mg/l以下	<0.001	<0.001	
23	ジクロロ酢酸	0.04mg/l以下	<0.004	<0.004	
24	ジブロモクロロメタン	0.1mg/l以下	<0.001	0.001	
25	臭素酸	0.01mg/l以下	<0.001	<0.001	消毒副生成物
26	総トリハロメタン	0.1mg/l以下	0.002	0.003	
27	トリクロロ酢酸	0.2mg/l以下	<0.02	<0.02	
28	プロモジクロロメタン	0.03mg/l以下	<0.001	0.001	
29	プロモホルム	0.09mg/l以下	<0.001	<0.001	
30	ホルムアルデヒド	0.08mg/l以下	<0.008	<0.008	
31	亜鉛及びその化合物	1.0mg/l以下	<0.01	<0.01	
32	アルミニウム及びその化合物	0.2mg/l以下	<0.01	0.01	着色
33	鉄及びその化合物	0.3mg/l以下	<0.03	<0.03	
34	銅及びその化合物	1.0mg/l以下	<0.01	<0.01	
35	ナトリウム及びその化合物	200mg/l以下	9.0	7.4	味
36	マンガン及びその化合物	0.05mg/l以下	<0.001	<0.001	着色
37	塩化物イオン	200mg/l以下	15	10	
38	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	300mg/l以下	68	48	味
39	蒸発残留物	500mg/l以下	117	85	
40	陰イオン界面活性剤	0.2mg/l以下	<0.02	<0.02	発泡
41	ジェオスミン	0.00001mg/l以下	<0.000001	<0.000001	
42	2-メチルイソボルネオール	0.00001mg/l以下	<0.000001	<0.000001	カビ臭
43	非イオン界面活性剤	0.02mg/l以下	<0.005	<0.005	発泡
44	フェノール類	0.005mg/l以下	<0.0005	<0.0005	臭気
45	有機物(全有機炭素)	3mg/l以下	<0.3	<0.3	味
46	pH値	5.8~8.6	7.1	7.0	
47	味	異常でないこと	異常なし	異常なし	
48	臭気	異常でないこと	異常なし	異常なし	基礎的性状
49	色度	5度以下	<1.0	<1.0	
50	濁度	2度以下	<0.1	<0.1	

北部水源系給水栓: 有年地区(採水場所: 西有年、有年原地区)  
南部水源系給水栓: 有年地区以外(採水場所: 周世、坂越、福浦、御崎地区)

給水栓(蛇口の水)の検査結果は以上のとおりです。すべての項目及びすべての地点で基準値を下回っており、赤穂の水は安心してお飲みいただけます。

なお、放射性物質のモニタリング調査の結果、放射性物質の影響はなく安全です。

# 平成25年度予算 上半期の状況

9月補正予算までに、平成24年度へ予算の前倒しを行った事業について7億5,243万円を減額したほか、土地開発公社解散経費に33億4,410万円、有年横尾線街路事業に4,900万円、市道改良工事外に2,158万円などを計上しました。

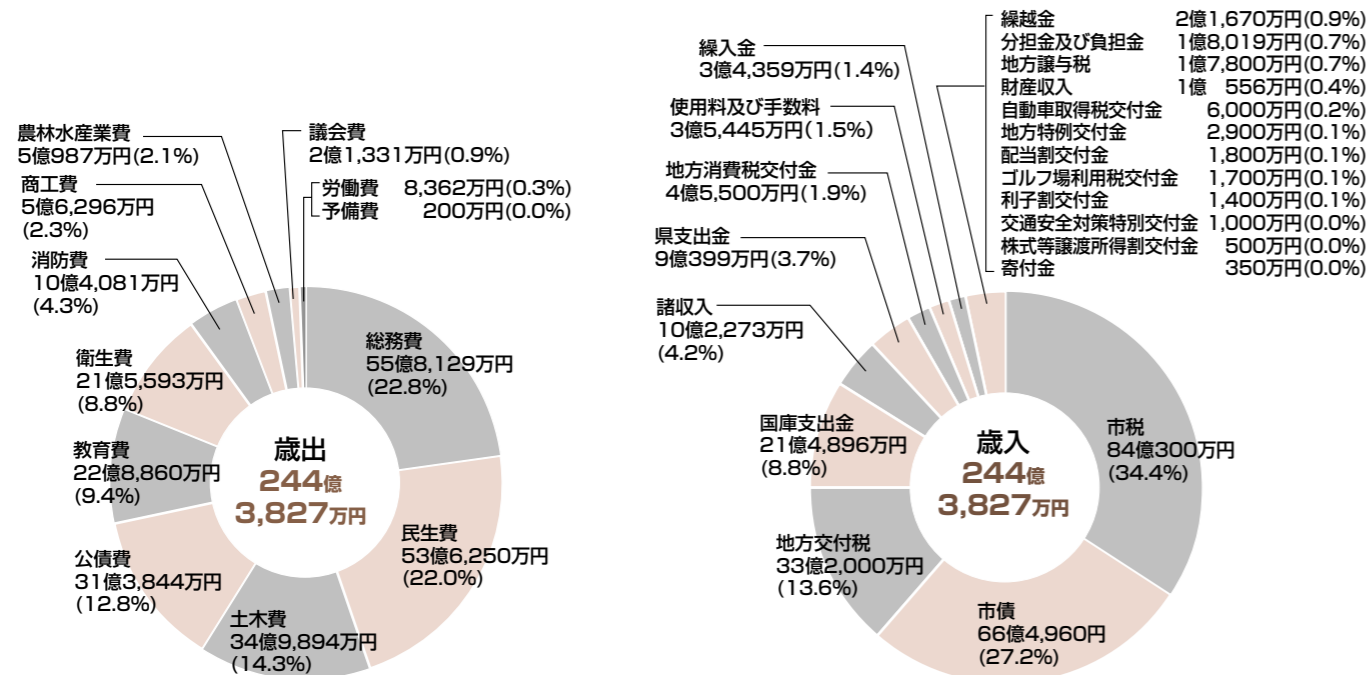
これにより特別会計、企業会計を合わせた9月補正後の平成25年度予算総額は、当初より31億289万円増えて、538億7,304万円となっています。



## 各会計別予算状況

会計区分	平成25年度当初予算額	9月補正まで	平成25年度現計予算額
一般会計	214億5,000万円	29億8,827万円	244億3,827万円
特別会計			
国民健康保険事業	57億300万円	8,030万円	57億8,330万円
職員退職手当管理	6億820万円		6億820万円
公共下水道事業	52億970万円		52億970万円
農業集落排水事業	2億8,670万円		2億8,670万円
墓地公園整備事業	1,190万円		1,190万円
介護保険	35億7,330万円	3,432万円	36億762万円
駐車場事業	1億2,190万円		1億2,190万円
土地区画整理事業清算金	120万円		120万円
後期高齢者医療保険	6億1,670万円		6億1,670万円
小計	161億3,260万円	1億1,462万円	162億4,722万円
企業会計			
病院事業	109億6,947万円		109億6,947万円
介護老人保健施設事業	3億2,980万円		3億2,980万円
水道事業	18億8,828万円		18億8,828万円
小計	131億8,755万円		131億8,755万円
合計	507億7,015万円	31億289万円	538億7,304万円

## 一般会計予算の内訳 (9月補正後)



# 介護老人保健 施設事業の決算

問い合わせ先  
介護老人保健施設 ☎42・1005

## 業務の状況

平成24年度の入所利用者につきましては、短期利用者は前年度を上回りましたが、長期利用者が減少したため、結果として前年度に比べて利用者数は減少しました。

また、通所利用者につきましては、前年度に比べて利用者数は増加しました。

平成24年度の入所利用者数は延15,824人(一日平均43.5人)、通所利用者数は延3,564人(一日平均14.6人)となりました。

## 経理の状況

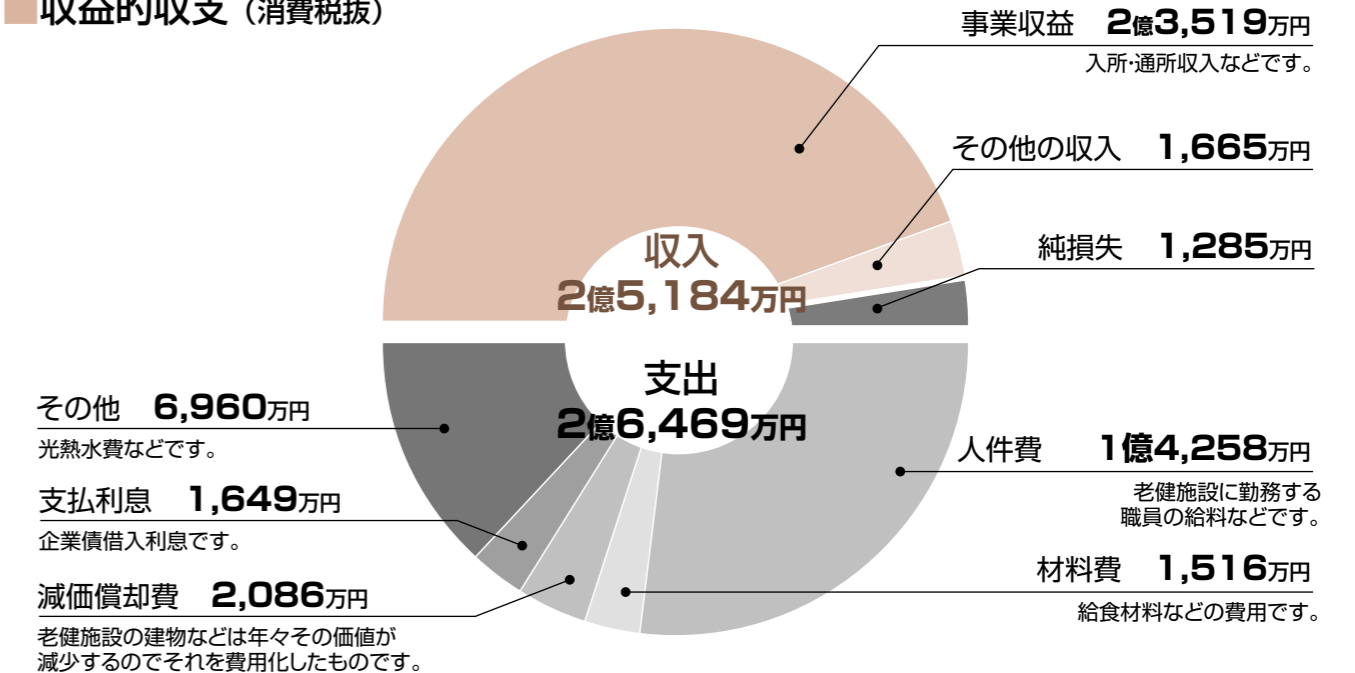
経営状況を表す収益的収支については、総収益251,837,572円、総費用264,688,346円となり、12,850,774円の純損失となりました。

資本的収支は、収入総額37,979,122円、支出総額40,362,097円となり、差引不足額2,382,975円は内部留保資金で補てんしました。

## 今後の老健施設運営

「利用者を選択される施設サービス及び居宅サービスの提供」と「在宅復帰、在宅生活支援」を基本として、経営の安定に取り組んでまいります。

## 収益的収支 (消費税抜)



## 利用者の状況

(単位：人)

区分	延利用者数		一日平均利用者数
	長期	短期	
入所	13,686	2,138	37.5
通所		3,564	14.6
計	15,824		43.5





# 写真で見る決算

## 健康診査費等助成事業



事業費 **3,163** 万円

新たに産婦健康診査として、産後の疾病の早期発見・早期治療を図るため、健康診査費用の一部を助成するとともに、妊婦健康診査では、14回の健康診査のうち3回分については、実態に合わせて助成を増額し、妊娠・出産に係る経済的負担の軽減を図りました。

一般財源  
2,449万円

県支出金  
714万円

## 避難所等標高表示板設置事業



事業費 **371** 万円

市民が災害時の避難場所及び付近の浸水の目安を把握するため、市内の指定避難所等に標高表示板を設置し、防災意識と防災行動力の向上を図りました。

一般財源  
371万円

## 産業活性化支援事業



事業費 **796** 万円

市民が所有し居住する住宅等の補修、改良等の工事に要する経費の一部を助成する住宅リフォーム助成制度を創設し、市内産業の活性化及び雇用の創出を図りました。

一般財源  
796万円

## 学校施設扇風機整備事業



事業費  
**1,972** 万円

夏場の熱中症対策として、小学校のすべての普通教室に天井扇を設置し、児童の学習環境の改善を図りました。

一般財源  
1,972万円

## 土地区画整理事業



事業費 **6億 5,110** 万円

有年地区、野中・砂子地区、浜市地区における土地区画整理事業を推進し、道路や公園などの整備並びに宅地の利用増進を図り、快適で機能的な生活空間の創出を推進しました。

一般財源ほか  
5,290万円

市債  
4億3,370万円

国庫支出金  
1億6,450万円

## 幼稚園預かり保育事業



事業費 **1,428** 万円

新たに高雄幼稚園でも開設し、すべての実施園において、午前7時30分からの早期保育、預かり時間の午後6時までの延長、春季、夏季及び冬季の長期休業日における保育を実施し、幼児教育の充実を図りました。

一般財源ほか  
1,428万円

## 尾崎・御崎地区都市再生整備事業



事業費 **4億 5,633** 万円

赤穂海浜公園に隣接する未利用地に児童厚生施設（児童館）を併設した多目的運動施設等を整備し、スポーツ・レクリエーション拠点としての機能向上を図り、スポーツを通じた交流により地域の活性化を推進しています。

一般財源  
3,143万円

市債  
2億4,340万円

国庫支出金  
1億8,150万円

## 市民憲章

わたくしたちの赤穂市は、播磨灘と千種川の清流にはぐくまれ、古い歴史と伝統をもつ、義士発祥のまちです。

このまちを愛するわたくしたちは、誇りと責任をもち、自然と調和のある豊かで希望にみちたふるさどづくりをめざし、ここに市民憲章を定めます。

1. 自然と歴史を大切に、美しいまちをきぎます。
1. 教養を高め、文化の向上につとめます。
1. 健康で働き、明るい家庭をつくります。
1. 互いに助け合い、愛の輪をひろげます。
1. きまりを守り、秩序ある生活をおくります。